

令和6年度 第2回岩見沢市まちづくり基本条例推進委員会 議事録（要旨）

●日時、出席者等

日時	令和7年3月18日（火） 午後4時00分～午後5時30分
会場	岩見沢市役所 2階会議室 2-1～2-3
出席委員等	委員9名
傍聴者	なし
事務局	5名

●議事録（要旨）

1. 開会

2. 委員長挨拶

3. 議題

（1）岩見沢市まちづくり活動のデジタル化について

（事務局からの説明）

本委員会は、市民主体による自主自立のまちづくりを推進するため、「情報共有」「参加」「協議」といった基本的事項について、市の取組み状況やより効果的な取組みなどを協議する場になりますが、本日は、この基本的事項をより効果的に行うための取組みとして、まちづくり活動のデジタル化についてご協議いただきます。

今回は、まず、市民がより市のまちづくりにかかわりやすくなる方法や課題について、改善してほしい点や目標などを出していただきたいと考えています。今回の結果を踏まえて、次回以降、デジタル化を含めた取組の検討を行っていただければと考えています。

本日は、令和7年度予算（案）の重点分野資料と岩見沢市の情報政策課でまとめたDXの取組みをご覧いただいた後、委員の皆様にご意見いただきたいと思います

—この後、資料を説明—

（米内山委員長）

事務局から説明がありましたが、この件は、情報をどのように共有するかということから始まると思っています。人によって情報の求め方が違います。私は新聞が主な情報源になっていますし、市内の関係は、紙媒体の広報や回覧物で得ているので、デジタルとは程遠いという現状にありますが、先程説明いただいたようなDXの取組みのようなデジタル化が、これからの岩見沢市民にとって、情報を求めていく中で大切なひとつのツールであることは認識しています。

利点がある一方で、進めるにあたっては、問題点もあろうかなと思いますので、資料を参考に皆様のご意見をいただきたいと思います。

(委員からの質問)

活動にLINEを取り入れた町会・自治会はどのくらいあるのでしょうか。今後広がっていくかも含めてわかれば教えてください。

(事務局)

現在の正確な数のデータがありませんが、岩見沢市町会連合会で令和5年に実施した単位町会基本調査では1町会、その後、出前講座等をきっかけにはじめられた町会がありますので、10町会前後と考えています。

町会長さんとのお話や出前講座をした感覚では、まずは役員間で使用してみようというところが多く、少人数での情報共有を中心に今後、広まっていくのではないかと思います。

岩見沢市町会連合会では、役員の連絡用として使用しています。リアルタイムで情報共有できる利点もありますが、これまで郵送していた会議の開催案内等も

LINEで行うことで、通信費の削減にもつながっています。

(委員からの意見)

市役所全体で考えると、通信費はかなりかかっていると思います。全部デジタル化は難しいかもしれませんが、受ける側もしっかりと利用する意識になってくるとだいぶ違ってくると思います。

(委員からの意見)

私の町会では、来年度から役員を増やすという話になりました。今までの高齢の方が昼間働いてる方になりました。先日、集まって、連絡どうしようかっていう話になり、LINEグループを役員の連絡に利用しようということになりました。公園を管理しているので、草刈りなどの連絡でも使用しています。

小回りの利く町会運営しようということでLINEを使っていますが、感覚としては、連絡が回覧板だけだったときよりは、迅速に町内行事が進められるかなと思います。ツールとして私の町会には合っているのかなと思います。

(委員からの質問)

市役所のLINE公式アカウントのユーザー数はどのくらいなのでしょう。

(事務局)

今、LINEアプリから確認できるユーザー数は2597です。

(委員からの質問)

例えば市民全員が登録したとして、配信できますか。

(事務局)

配信に問題はありません。

(委員からの質問)

よく、LINEのセキュリティの問題を気にする人がいるのですが、市としてはどのような認識なのでしょう。市の職員間ではLINEを使っていないのでしょうか。

(事務局)

一般的には、LINEなどのメッセージアプリやSNSを使用する際の基本とし

て、名簿などの個人情報には載せないでください。個人情報の取扱い注意してくださいといった形になります。

市民連携室でも、町会活動にLINEを活用できるよう出前講座を行っていますが、その際も、印刷されて町会外の人に見られても大丈夫なものしかのせないでくださいという話をさせていただいています。便利ですが、全面的に信頼するのはやめてくださいという考え方になります。

市の職員間では、LINEは、日程調整などの連絡で使っています。機密情報や個人情報をやりとりすることになる業務では、Webexというアプリを使用しています。市民連携室の業務を例にすると、空き家対策業務で撮影した写真や場所がわかる地図などになります。

(委員からの質問)

デジタル化はすすめる方向でいいと思います。ただ、メールのようにたくさん届くと大事なメールが見つけづらくなるので、埋もれなくなるような工夫が必要になると思います。正直なところ、LINEグループはわかるのですが、LINEオープンチャットがよくわかりません。漠然と知らない人も参加してくるイメージがあります。セキュリティ面も含めて、勉強が必要かなと思っています。使われるイメージを教えてください。

(事務局)

LINEオープンチャットは、公開範囲の指定などの設定を工夫すれば、この委員会のように一般公開している会議の、日程調整や開催案内などに使用できると考えています。現状はここまでだと考えています。

(委員からの意見)

私は、LINEで連絡をとっていただいてもかまわないと思っています。オープンチャットも特定の人しか見れないパスワードがかかった設定でできれば良いと思います。会議の開催案内に使ってみてもいいかもしれません。

(委員からの意見)

私もLINEは便利だと思って使っています。ただ、セキュリティや個人情報の問題などが常にあるので、そのあたりが共通認識になればもう少し使いやすくなるのかなと思います。ただ、どれが良いのかとかそちらの方がわからず、ひとまずLINEを使っているような状況です。おススメがあればそちらを使ってもいいのかなと思っています。

(事務局)

まずは使ってみようということであれば、今後、この委員会では、開催通知を通常の紙とLINEオープンチャットの二つの方法で行ってみるのもいいかなと思います。よろしければ、次回までに、登録方法などをまとめてお知らせします。

何か、おススメできるようなアプリについては、今のところ特にありません。市の情報政策担当と検討してまいります。

(委員からの意見)

私の町会でもLINEグループを使いはじめました。最初は3、4人の小規模なところからはじめて、現在は、役員間での日程調整や情報共有で使っています。電話やメールで行っていたこれまでとは異なり、それぞれのタイミングで町内の起きた出来事や写真をLINEに書いて共有することができるので大変便利です。最近では、会員全員向けに連絡する手段があればと思うようになってきています。今後としては、高齢化して回覧板を回すのが大変になってきたときの代替として使うのもいいのかなと思っています。その際、お知らせする側としては、LINEグループのように既読がわかるようになっているなど、見たことがわかるようになっていると反応がわかって有難いです。

(委員からの意見)

LINEグループになると一度つながってしまうと、こちらにその気がなくても相手の都合でつながることができてしまうので、多くの人に参加するのであれば、会議の日程連絡などの一方的な連絡などの軽い使い方になってしまいがちですが、LINEオープンチャットの方が良いのかなと思います。役員間のように小規模であれば、細かい作業内容の相談などを行う目的でLINEグループを使うのもいいかもしれません。この機能で満足できるものなのかはわかりませんが、1件ずつ役員に電話して伝えると、最初の人に話した言葉と最後の人に話した言葉が変わってしまうことが多く、結果、少し違うことを伝える状況になってしまうので、一度に状況や意見を共有するために、私の町会ではLINEグループを役員用に使っています。

(委員からの意見)

私は町会の班長をやっているのですが、個人情報で町会長に送らなければいけないことが多いと感じています。個人情報を送るとなるとFAXでと言われ、今日出してきましたが、メールが使えると便利だなと感じました。LINEでなくても、メールが使えるようになるだけでもいいのかなと思います。

ただ、やっぱり紙でいただいた方がいいなんて方がいたり、FAXではなく直接手渡ししないといけない情報もあるなど、やっぱり安心なのは紙という感覚があるのかなと思います。

(委員からの質問)

DXでどこを目指しているのか、着地点があるのであれば教えてください。

(事務局)

現在行っている取組みの一部をデジタル化して、行う側の省力化やサービスを利用する側の利便性の向上が図られるようになればと考えています。一例として、岩見沢市町会連合会でこれから行う予定の回覧のデジタルアーカイブがあります。これは、全市的に配布している回覧のPDFデータを岩見沢市町会連合会のホームページに掲載するもので、会員間がLINEオープンチャットなどでつながっている町会はURLを共有することで、会員が回覧データをダウンロードして見るができるようになります。届いた回覧をデータ化し、共有している町会は省力化が図

られると思いますし、今後、町会でLINEなどのアプリ導入を行う町会は、回覧情報が共有しやすくなります。

岩見沢市町会連合会としては、町会役員さんや班長さんの負担軽減を図っていきたいので、このようなデジタル化で実現できればと考えています。

LINE以外にもコミュニケーションツールはありますが、費用がかかるものも多くありますので、どのような仕様があると良いのかも併せて考えていければと思っています。結果的にLINEが一番良いということになることも考えられます。

(委員からの意見)

健康ポイントアプリについては、歩数やラジオ体操や健診、団体事業に参加した際にポイントがつきますが、アプリと紙のカードは併用できません。

若い人はアプリを選ばれるのだと思いますが、どちらかというのがあるので、高齢者の方が多いサークルやサロンでは、皆さん紙を持ってきて楽しんでいる状況にあります。

みんなと会ってお話して、なんか楽しく笑って帰っていくというのが健康に繋がるので、紙のカードは有効期限があったように思いますが、紙でできるだけ頑張っていきたい方が多いと思いますので、延長してもらえるといいなと思います。

デジタル化を進める際は、デジタル化が得意ではない高齢者層にどう関わっていくかが大切で、紙とデジタルを並行すすめるのも良いのかなと思います。

(委員からの質問)

私のDXやデジタル化のイメージは、とにかく紙をやめるというイメージがあります。広報もPDFで大丈夫な人は広報をいらないといった感じになるのかなと思いました。スマートフォンがこれだけ普及していてホームページを見る手段があれば考えはじめていいということになるのでしょうか。

(事務局)

広報のPDFをスマートフォンで支障なく見ることができるかは、サイズ面で厳しい人がいると思います。現在、市の広報は、紙のものを市民にお渡ししなければいけないルールになっていることもあり、デジタル化を進めていく際は、急にやめることはせず、悪影響が出ないように、現行のルールの扱いも含めて考えていかなければならないと思います。

(委員からの意見)

昨年度、新型コロナウイルス感染症の関係で行っていなかったワークショップのイベントを久しぶりに開催した際に、参加案内を従来のチラシ配布ではなく、メールの一斉配信で行ったところ、来場者が少ない結果となりました。

結果的に、そのメールを見ていない人が多かったとのことで、大事なものは紙で配る方が見てくれるというのが実態のようです。

こちらとしては、チラシ代が浮いたと思っていたのですが、そううまくはいきませんでした。スルーされないようにするか、既読を確認できるようにするなどでき

た方がいいのかもしれませんが。

(委員長)

様々問題はあると思いますが、できるところからやっていくしか方法はないのだろうと思います。

小さなところからでもはじめて、広がっていけばと思う一方で、視力の関係で紙ベースの方が良い、例えば、今回のような委員会の資料の大きさもA3の方が良いといったような気持ちもあるのが実態です。これはどうしようもない部分なので、そこをおさえながら、DXの方向を考えていくしかないのかとも思います。そのために本日議論をしているところで、ベストというものは中々見つからないものですので、まずは、たくさん問題があることを共有することが大切だと思います。

(委員からの意見)

岩見沢市の公式LINEは良いという話を地区の女性の方から聞きます。メールを見ないとか、紙の広報を読まないとか、問題は様々あるのだと思いますが、充実させていく中で、やめてもいいものを探していくことも大切なのではないかと考えています。充実させると使われないサービスも出てくるでしょうし、ここまで様々丁寧に行っていく必要があるのかと感じています。

実際にLINEは使っていて、スピード感があり便利な部分が多いので、こう使うと便利といった事例を様々出し合って、事務局にまとめてもらうだけでも違うのかなと思います。

正直、農村部のように家の距離がある場所では、紙の回覧は機能しづらいので、都市部に比べてデジタル化の効果が大きいと思います。回覧作業に係る時間と労力も削減される面もありますし、考えてもらえればなと思います。

(委員長)

北村でも後継者が育ってきて、前の世代は、FAXや会合で情報をやりとりしていたのですが、若い世代は集まることが少なくなって、スマートフォンで必要な情報を得るといったような状況なっていますので、町の中より農村部の方がそういう課題がはっきりしてるだけ、デジタル技術の利用もしやすいし、統一感もあるのかなという感じがします。

一方で、町会の中には、要支援の方々もおられるので、その方が元気かどうかの確認や打ち合わせといったところを広報や回覧の配布とあわせて行えると地域として安心感が出てくるのかなというところもありますので、デジタルではなく足を使ってきちっと活動していくことも大切なのかなと思っています。

4. その他

ーなしー

5. 閉会